



簡潔にイスラム法を学ぶ

図解付き崇拝行為に関する諸規定



齋戒

ラマダンのサウムの解除の許可される理由と逃したサウムの日数の補い

ラマダンのサウムの解除の許可される理由と逃したサウムの日数の補い

目次

ラマダン月にサウムを解く許可された理由

逃したサウムの支払い

ラマダン月にサウムを解く許可された理由

1. 病気

病人はラマダン月に齋戒を解くことが許可されます。至高のアッラーは述べました：{だがあなたがたのうち病人，または旅路にある者は，後の日に（同じ）日数を（齋戒）すればよい。} [雌牛章:184節]

サウムの解除が許可される病気は、もし病人がサウムをすれば深刻な痛みを起こしたり、それに繋がるものです。

病人が齋戒を解くこと

もし病人が齋戒を解き、その病気が治癒する予想がつくなら、逃した日数を齋戒するのが必須です。至高のアッラーは仰せられました：{だがあなたがたのうち病人，または旅路にある者は，後の日に（同じ）日数を（齋戒）すればよい。} [雌牛章:184節]

しかしもし病気の治癒が期待できない場合は、例えば疾患または老人が永久にサウムをする能力がない場合、1日につきサアールの半分の米、もしくはコミュニティー内の一般的な食品を(サアールは平均的な男性の4度の一握りの尺度です。1サアールはおおよそ2.25キログラムで、従って一日に施す良はおおよそ1キロと25グラムです) 人の貧者に施さなければなりません

2. 旅行

旅行者はラマダン月にサウムを解除することが許可され、逃した日の日数を後程齋戒します。全能のアッラーは申されました： {だがあなたがたのうち病人、または旅路にある者は、後の日に（同じ）日数を（齋戒）すればよい} [雌牛章:184節]

アル・カスル（礼拝中のスジュードの回数の削減）（サラート）が許可される同じ距離は、人々の習慣による旅行と許可される形の旅行と知られていれば、サウムの解除も許可されます。もし、しかし、それが罪のある旅行もしくはサウムから解除される為の旅行であれば、サウムの解除は禁じられるでしょう。

しかし、もし旅行者がサウムを決心するなら、それは有効になるでしょう。これはアナス・イブン・マーリクの伝承によるもので、彼は述べました； 我々はサウムをしながら預言者と旅行したものでした。そしてサウムをしている者達はサウムを解除した者達を罵倒したり、見下したりはしませんでした。（ティルミズィーの伝承）

しかし、この許可はサウムがその者にとって重荷であったり痛みを起こさないことが条件です。これは何故なら預言者が旅行中のある日、厳しい暑さの為にある男がサウムが重荷になった（酷く弱体化して）ところを見ました。そしてそのような人々が彼の周りに集まりました。それ故に、預言者は述べました： 旅行中のサウムは正義の一部ではありません（ティルミズィーの伝承）



3. 妊娠と授乳

妊婦と授乳中の女性でサウムを行うと重荷になるという恐れがある者は、サウムを解除することが許可され、病人の場合のようにサウムの日数を後程補います。預言者は述べました； 全能のアッラーは旅行者のサウムとサラート（毎日の礼拝）の一部を和らげられ、妊婦と授乳中の女性のサウムを和らげられました。（ティルミズィーの伝承）

しかしもし自分の子供や胎児のみへの負担を恐れるなら、サウムを行わなかった日の日数に付き1人に施し、その日数分を後程サウムしなければなりません。イブン・アッバスは述べました： 妊婦と授乳中の女性に関しては、もし子供へのサウムの負担を恐れるなら、サウムを逃した日数を後程サウムし、逃した日の日数分、貧者に施します。（アブ・ダウードの伝承）

4. 月経と産後の出血

しかし月経中の女性もしくは出産後の出血はサウムが禁じられているので、サウムを解除する義務があります。もし、しかし、サウムを行ったなら、それは有効ではなく：サウムを逃した期間と同等のサウムを返済しなければなりません。アーイシャ（アッラーが彼女に悦んで下さいますように）は何故月経中の女性が逃した礼拝ではなく逃したサウムを支払うのか尋ねました。彼女は述べました； それ（出産後の出血と月経の出血）は私達に降りかかり、逃したサラート（礼拝）ではなく、我々は逃したサウムを支払うように命じられました（合意）

逃したサウムの支払い

もしムスリムがラマダン中有効な理由なしに、サウムの日を逃したとしたら、アッラーに懺悔し、かれの許しを得なければなりません。何故ならその犯罪は偉大であり、忌まわしい行為だからです。彼はまた反省と許しを請うことに加えて、サウムを行わなかった日数をラマダン後に補わなければなりません。最初の段階でサウムを解除する資格はなく、正確な時間の日々をサウムしなければならなかったので、学者の最も正確な見解によれば、ここでラマダン後直ぐ翌日（複数日）にサウムの日数を補う必要があります

もし女性のハイド（月経）と二：私はラマダンのサウムを逃した日をシャアバン（次のラマダンの前の最後の月）まで補うことができませんでした。」助手の語り手のやひやーは言いました。「彼女は預言者に仕えることに忙しくしていました。（合意）

しかし逃したサウムの日々を早急に支払うことが好まれ、高く奨励されています。何故ならそうして債務から解放されるからです。そしてサウムから妨げるような病気やそのような予期せぬ何かの為に、そうすることは人の為にも安全です。

もし次のラマダンまでに逃した日数を補うことを延期し、その延期の理由があるなら、またその同じ理由がまだ続くなら、次のラマダンの後にその日数を補う必要があります

しかしもし理由もなく次のラマダンまでに日数を補うことを延期させるなら、大多数の学者の見解によると、その国の主食である1サアーの半分（約1.5キロ）を日数分貧者にふるまうことが義務とされます。ハナフィスとタヒリスはしかし貧者を養う必要はないという見解です。逃した日々を補う為にサウムは連続して行う必要はありません。連続した日もしくは別の日に日数を齋戒する事ができ、両方が正解です： {だがあなたがたのうち病人、または旅路にある者は、後の日に（同じ）日数を（齋戒）すればよい} [雌牛章:184節]

崇高なアッラーはこれらのサウムの日々を連続である必要はないと言います。もしそれが全能のアッラーが明らかにした条件であれば

ラマダンの逃した日々を補わなければならないなら、自発的なサウムを行う前にそのサウムを行うべきです。何故なら、サウムの義務はより偉大で重要だからです。しかしラマダン中の義務的なサウムの日を補う前に任意のサウムが許可されます。もし任意のサウムの日とその美徳の為に、逃したくない場合です。

例としてはムハッラムの10日目、

アラファの日、シャウワルとそのような6日間のサウム、

ラマダンのサウムの日を補う機会は次のラマダンの前までの6日間のサウム、

ラマダンの日数を補う為の機会は次のラマダンまでであるからです。

しかし、早急にラマダンの日数を補うほうが良いです。

有効な理由で死ぬまでにラマダンの日数の補いを延期する者

は誰でも、意図的にサウムを残したのではないので、彼に反対はありません。しかしもし、理由がない場合は、ラマダン中にサウムをしなかった日数の貧者に施しますが、もしそのサウムがナスル（もしなにかが起こったらアッラーの為にサウムすると誓うこと）であれば、かれの、後継ぎは彼の変わりにサウムしなければなりません。数人の学者はもしある者が死にラマダンからの補う日数がまだあったとしたら、ラマダンの義務のサウム、もしくはナスルサウムまたそのようなものであろうと、彼の後継ぎは亡くなった者の代わりにサウムすべきです。アーイシャ（彼女にアッラーが悦んでくれますように）の伝承によるとアッラーのみ使いは述べました： 亡くなり（ラマダンに逃した日数を）サウム（齋戒）しなければならぬ者は、保護者（後継者）が彼の変わりにサウム（齋戒）しなければなりません（合意）

；イブン・アッバス（彼がアッラーに悦んでもらえますように）は述べました： ある男が預言者へやって来て言いました。「アッラーのみ使いよ！私の母は亡くなり。(合意)